
JOKER MOON-月夜のゲーム-

咲崎つかさ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

JOKER MOON - 月夜のゲーム -

【Nコード】

N8835C

【作者名】

咲崎つかさ

【あらすじ】

勝てば光、負ければ死のみ。それが月夜のゲーム、JOKERM OON。それは、突如として一人の少女の前に現れた…

STORY 1 始まり

JOKER MOON…それは、死と生を賭けたゲーム。

愛する者を失ったとき、全ての者にそれに参加する権利が与えられる。

勝てば光、負ければ死のみ…それが、月夜のゲーム、JOKER MOON。

そんなゲームに参加する日は、死と同じくして何でもない日常に突如現れる…。

真夏の夜、ほとんど何も見えないような暗闇の中、小さくすすり泣く声だけが聞こえる。

「母さん、何で死んじゃったの…」声の主は、十四歳くらいの少女だった。

彼女は一昨日母を亡くし、途方に暮れていたところだった。

泣いても泣いても涙が溢れてくる。どうにもならない状況だった。

そうして泣いているうちに、彼女は、自分が今までいた場所ではなく、何も無い暗闇の中に

いることに気付いた。

「ここは…?」彼女がつぶやくと、不意に、暗闇から低い男の声が聞こえてきた。

「おまえは、母親を亡くしたのか?」

「…誰??」男の問いに答えず、少女は聞き返した。

「おまえは、母親を亡くしたのか、と聞いている」また、男も少女の問いに答えず、同じ問

いを繰り返した。

「何で知ってるの?」

「…母親を、生き返らせたか?」

「は…??」少女は、男の言葉に一瞬呆然とし、耳を疑った。

「それは…新手の詐欺か何かですか?」

「違う。断じて違う」男は少し取り乱した声でそれを否定した。

「生き返るなら、いいと思うよ。けど、もう取り返しがつかない。帰ってくるわけがない。」

漫画じゃないんだから「男を半ば無視し、少女は首を振った。」

「…JOKER MOON…月夜のゲーム…」男が聞き取れな

いくらい小さな声でつぶやいた。

「ジョーカームーン？月夜のゲーム？何それ？」少女の問いに、男は静かに答えた。

「このゲームに参加すれば、おまえの母親は生き返るかもしれない」

暗闇にしばらく沈黙が訪れた。

STORY 2 出会い

「だから、いつまでそんな漫画みたいな話してるつもりですか？」
少女が呆れた顔をした。

「漫画みたいな話じゃない。本当の話だ。信じるなら、オレがこの暗闇を取り払ってやる。」

それと同時に、オレも現れる」

「暗闇…そういうば、ここ、どこ？」

「異世界だ」男は平然と答えた。

「異世界？」

「愛する者を失った時、全ての者はここに呼び出され、J O K E
R M O O N への参加権が与えられ

る。参加するしないは勝手だ。だが、一度参加すれば”愛するもの”
”が生き返るまで二度と<ruby><rb>現

実世界</rb><rp>(</rp><rt>むこう</rt>
<rp>)</rp></ruby>には戻れない」

「二度と…？」

「ああ。そして、負ければ待つのは死のみだ」男は静かに言った。

少女の頭の中に様々な考えが行き交う。もし、本当に生き返るなら…、けど、負けて死ぬの

は……。生への希望と死への恐怖が少女を迷わせる。

数分後、少女は答えを出した。

「あたし、母さんを生き返らせた」死への恐怖はある、でも、可能性が1%でもあるな

ら…。この命を捧げてでも、母をあの世界から取り戻したかった。

「わかった」男はそれだけ言うと、しばらく黙った。

男がなかなか出てこないことを少女が不思議に思っていると、

次の瞬間、

先ほどまで何も見えなかった暗闇は取り払われ、辺りは少しだけ明るくなっていった。

だが、人気ひとけはなく、建物も、草木も、地平線までもが見えない。

まだ薄暗い感じ

もする。

少女がやっぱり騙されたのか…？とか、てかここどこだよ、日本？などと考えていると、先

ほどの男の声がした。

「こつちだ」その声のする方に振り向くと、そこに人間の男の姿はなく、一匹の黒い狐らし

い生き物がいただけだった。

「え、さっきの声の人？人じゃなかったの…？」少女は驚きながらこの黒い狐のような奴を

見つめた。額には黄色い輪の模様、瞳は蒼く鋭く、全身は真っ黒だ。狐とも妖怪ともつかない

この生き物は、確かにしゃべった。口もある。

「オレはまあなんつーか…狐じゃないぞ、まず現実世界の者ではない。まあ…」

妖怪…ってどこか

「名前は？ないの？」尚も不思議そうに妖怪だというらしいそれを見つめながら少女は訊い

た。

「主人が変わることに変わる。ってことで付ける」妖怪はきっぱりと、唐突に、命令形で言

った。

「え…そんなテキトーな……」少女は悩んだ。この狐みたいな

自称) 妖怪に名前を付け

る…。ペット感覚でいくと妖怪が嫌がるだろうから…。

大分悩まされ、数分後、やっとのことで少女は口を開いた。

「これでいこうよ、黒狐クニク！よくない？黒くて狐っぽいから、黒狐！うん、ナイス

ネーミング」少女は一人でうなずき、一人で満足した。

「黒狐…まあ日本臭い名前だな。てか読み様によっては女みたいだぞ。ほら、黒子的な」

「文句なし！あたしは黒狐の主人でしょ？」黒狐はまだ不服そうだったが、少女はそれを流

した。黒狐に反論する余地なし。

「あたしの名前は月音あかり。よろしくね、黒狐！」

「うむ。じゃ、早速だがこれ、首にかける」黒狐が差し出したのは、月の首飾りだっ

た。

STORY 3 魔除け

「? 何、これ?首飾り?」黒狐に渡された月の首飾りを見て、あかりは首をかしげた。

「見ての通り首飾りだ。これからは常時、それを付けておいてもらう」

「なんで付けなきゃいけないの?」言いながら首飾りを首にかけると、あかりが訊いた。

「色々理由があるんだよ。長くなるから以下省略!」

「省略するなよ。困るじゃん」あかりに言われ、黒狐はめんどくさそうに説明を始めた。

「その首飾りはあれだ、チャーム魔除けっていうのでな、まあ…あれだ、魔から守って

くれんだ、その名の通り」

「魔?異世界マジ、そんなものあるの?」

「あるぞ。現実世界そっちみたいに平和な場所じゃないからな、ここは誰もが自分の

愛する者を取り戻すために死んだり殺したりだからな。おまえより小さいのもいるぞ」

「あたしより!?!」黒狐の言葉に、あかりは驚き入り、JOKER
MOONに改めて

恐怖を感じた。

あたしより幼い子どもが愛する者を取り戻すために死んだり殺
したりしているなんて…

恐いというか、気の毒というか、可哀そうというか、すごいとい
うか、ありえないという

か…。すべてに当てはまる気がした。

「で、でも、そんな小さくて勝てるの?」あかりの問いに、黒狐
は平然と答えた。

「勝てるぞ。余裕で。JOKER MOONには年齢は関係ない
からな。五歳くらいのガキが三十代の

おっさんに勝つても全然おかしくない。異世界はそういう世界だ」

「うそ…。じゃあ、あたしがそれくらいの子に負ける可能性もあ
るの!?!」

「あるな。十分に。異世界では大人より子どもが強い力をもつて
いるからな」

「なんで?異世界って、現実世界と何が違うの?」

「JOKER MOONは純粹さとか、優しさとか、そういうの

を要するゲームだからな。基本はこど

も向きだな。まあJOKER ^{これ} MOONをやり続けてるうちにどん
どんドス黒くなっていて、死

んでいくガキもいるがな」黒狐が現実世界ではありえないことをあ
まりにも平然というので、

あかりの頭の中は混乱し始めた。

「う…なんかよくわからないけど、とにかく、いつまでもこども
でいればいいのね？気持ち

だけ！それはわかったけど、JOKER MOONって、どうやる
の？」

「ん？ああ、そういえば言ってなかったな。JOKER MOO
Nはな、その魔除け^{チャーム}と自

分の体技、頭脳を使うんだ」

「体技？頭脳？あたしどっちもできないよ？体技は何も習ったこ
とないし、頭脳はあたし、

成績中の下だったし。それに、魔除け^{チャーム}ってどう使うの？」あかりは
嫌なことを思

い出したように（恐らくテストのこと）、少し声のトーンを低くし
て言った。

「そこらへんは問題ない。これから成長していくからな。魔除けチャームに関しては、

これから教える。まあ主には防御に使うだけだ。魔除けだからな」

「へー。あ、魔除けっていえば、魔って、本当にいるの？異世界イコ」

「いるぞ。まぬけな奴プレイヤーチャームで魔除けを付けるのを忘れていて、魔

に殺されてゲームオーバーになったバカもいたからな」

「うわ…」あかりの顔が引きつる。自分の場合を想像してしまっ
たのだろう。

「でも、これ付けてたら襲われないんでしょ？」あかりが訊くと、
黒狐は黙りこくってしま

った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8835c/>

JOKER MOON-月夜のゲーム-

2011年1月5日14時41分発行